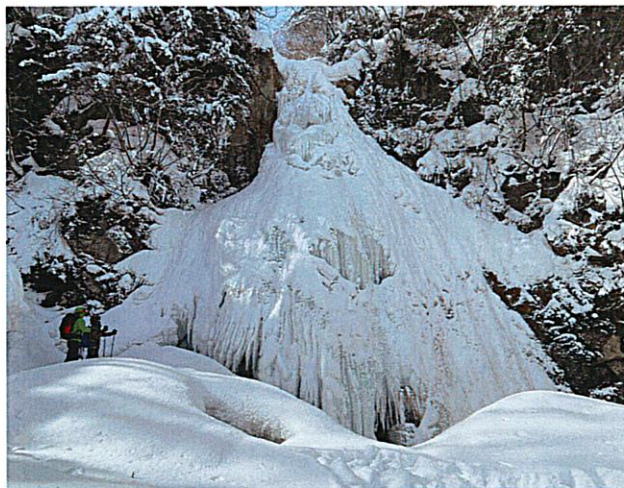


岩手県民の森

# 七滝氷瀑ガイド



【厳冬期の七滝】滝の表面が全面的に凍ります。  
2021年1月31日

イベント以外の日にはプライベートガイドも承ります。スノーシューレンタルは別途1,000円（ダブルストック付）1週間前までの予約制。人数が揃えばお得です。団体様もご相談ください。  
【時間】9:00-13:00 【料金】10,000円（こちらの料金で最大5名までご案内）



厳冬期は滝壺まで凍ることもあります。  
2022年2月22日



【新緑の七滝】 2020年5月25日



【紅葉の七滝】 2020年10月24日

県民の森にある七滝は、岩手山から流れる焼切沢の最大の滝です。春は新緑、秋は紅葉の名所として全国的にも有名ですが、厳冬期には、落差約30mの滝が凍り付いて迫力のある氷瀑となります。例年12月中旬から滝の両脇から凍り始め、1月下旬～2月中旬頃に最盛期を迎えます。氷瀑は、訪れる時期や時間によって、様々な表情が見られるため、何度も訪れる方も多いです。冬ならではの氷の芸術、本日はどんな姿が見られるのでしょうか。

七滝までの見どころ（園内マップの「冬の見どころガイド」も併せてご覧ください）



【七滝登山道】七滝まではミズナラ中心の落葉広葉樹が多く、昭和30年代頃まで炭焼きが行われており、切り株から萌芽した「株立ち樹形」がのミズナラが多く見られます。



【みはらし広場（昭和の森）】七滝登山道は緩やかな登りが続きますが、学習館から七滝登山口までは標高差50mあり、最もキツイ登りです。登山口に到着して北側を見下ろすと、アカエゾマツなどの整った樹形の針葉樹が見られます。厳冬期には、ひときわ目立ち、迫力のある美しさです。



【アズキナシ】（バラ科）「小豆梨」小豆（アズキ）のような大きさの梨のような実がなります。今年は豊作で赤い実が冬も残っています。



【カラマツ】（マツ科）「唐松」日本産針葉樹のなかでは唯一落葉します。松ぼっくりはバラの花のよう。雪上に枝ごとよく落ちています。



【トドマツ】（マツ科）「榎松」常緑針葉樹。七滝の手前に植林があり、これまでの落葉樹中心の森とは異なる雰囲気の中を歩きます。



【マンダの木】（アオイ科）このあたりの呼び名で正式名はシナノキ。写真は口のような形で「顔の木」と呼ばれ、登山者に愛されています。



【ミズナラ】（ブナ科）「水楢」秋に大きなドングリが出来、森の動物たちの食糧となります。材はウイスキーの樽などにも使われています。



【ブナ】（ブナ科）「樺」七滝周辺より上部に多く見られます。秋に出来る実は栄養価が高くツキノワグマなど森の動物たちの食糧です。

【問い合わせ】 森林ふれあい学習館 電話 0195-78-2092 〒028-7302 岩手県八幡平市松尾寄木 1-515-5